

兵庫県のコフキコガネ

(兵庫県甲虫相資料・143)

高橋 寿郎

日本産のコフキコガネ族 Melolonthini は、クロコガネ亜族 Rhyzatrogina , コフキコガネ亜族 Melolonthina に分けられて、13属、41種、10亜種が知られている。兵庫県下には7属12種が知られているにすぎない（もっとも本州産ということになれば7属13種であるから、1種を除いて他は全部分布していることになる）。一部のものについては報告したことがあるが（高橋、1952,1967,1980）、分布その他の新発見もあるので、このなかまの県下の分布についてまとめてみた。

このなかまは、既に故・野村鎮氏の原色の図説もあるし（1963）、最近小林裕和氏によって日本産の研究史とか分類学的概説が発表されて（甲虫ニュース, No. 58, 59, 60, 62, 1982, 1983）、同定についてはそれらによってできると考えられるので、形態に関する記載は一切省略した。

Subfamily Melolonthinae コフキコガネ亜科

Tribe Melolonthini コフキコガネ族

1. *Apogonia amida* Lewis, 1896 ヒメカンショコガネ

本種はLewis が“Nagasaki and other places in Kyushu”として記載された種である（Ann. Mag. Nat. Hist., 6, xv ii, 1896, p.332）。このなかでLewis はWaterhouseが日本から *A. splendida* と同定記録された種（Trans. Ent. Soc. London, 1875, p.102）が実はこの種であることを記している。

新島・木下両博士は、四国（高知）の産を報ずるとともに図説をされた（Res. Bull. Col. Agr. Ex. Forest Hokkaido Imp. Univ., Sapporo, ii, 2, 1923, p.72 Taf. iii, f.18）。当時はまだ本種はかなり珍しい種と考えられていた。その後、沢田玄正博士は日本旧領内の *Apogonia* 属甲虫の総説をまとめ、そのなかで本種にも解説を与えられている（Jour. Agr. Sci. Tokyo Nogyo Daigaku 1巻, 3号, p.267-280, pl. x, 1940）。

兵庫県下では、故・米谷正司氏が神戸の赤塚山（現在、神戸大学のあるところ）

でマルバハギの根元で越冬しているのを多数採集した(1939)ことから、当時まで大変珍しいとされていた本種の生態の一部がわかり、多くいることが知られた。現在でも多産地というにはあまりきかないが、神戸市内で電灯などに飛来したものを割合採集している。ただこの種は、記録を見ればわかるように海岸線の地域には産するが、中間部や山地帯などにあまり記録がない点に注目してもよいと思われる。

産地：津名群津名町大町〔堀田, 1979〕。川西市大和〔仲田, 1978, 1982〕。神戸〔沢田, 1940〕, 住吉〔伊賀, 1955〕, 御影〔和田〕, 赤塚山(7exs., x i - 1940), 〔米谷, 1955〕, 熊内〔柴内〕, 磨耶山〔増田, 橋本, 1941〕, 烏原(1ex., 20 - vi - 1962), 西垂水(1ex., 30 - v - 1960, 2exs., 10 - vi - 1960, 1ex., 21 - v - 1961, 1ex., 26 - v - 1961, 1ex., 27 - v - 1961, Torii leg.)。多可郡黒田庄(2exs., v - 1956, K.Okamoto leg.)。佐用郡大撫山(1ex., 13 - iii - 1976)。

2. *Miridiba* (s. str.) *castanea* (Waterhouse, 1875) クリイロコガネ

Waterhouseによって“*Kawachi*”を産地に *Holotrichia* 属で記載された(I.C., 1875, p.108)。

Reitter は、その大著 *Best.-Tab.*, (50), 1903, p.173-174 で *L. senensis* Hope をタイプとして Subgenus *Pledina* を創設, *Holotrichia* (*Pledina*) *castanea* として Japan から記録した。新島・木下両博士(1923), 並びに Medvedev もこの取り扱いをしている(*Fauna U.S.S.R.* 11巻, 1号, p.292-294, f.555, 1951)。

沢田玄正博士は, *Holotrichia* 属の種を *Lachnosterna* 属の種として取り扱うと同時に, *castanea* は *Lachnosterna* 属のなかでは違った存在の種として扱っておられる(昆虫, 17巻, 6号, p.14-16, 1949)。

その後、野村鎮氏は, Arrow の創設された *Neodontocnema* 属に属する種として取り扱われた(Toho, Gakuho, No.10, 1960)。

村山醸造博士は, Reitter の創設した *Miridiva* 属の種であると発表され(満鮮金亀子図説, 第一巻, 1954), 一番新しい野村, 小林氏の目録にもこの属の種として扱われている(日本産甲虫目録, No.15, 1979)。

分布は, 本州, 四国, 九州から朝鮮, 済州島, アムール, 支那とかなり広い。

兵庫県下では、従来分布状況があまりよくわからなかった種である。個体数はそれほど多くないが、やや海岸線ぞいの地域を中心に分布し北部山岳地帯では見られない種のようなのである。

産地：洲本市安乎町〔堀田，1974〕。三原郡諭鶴羽山〔堀田，1974〕。川西市見野，笹部，大和〔仲田，1978，1982〕。神戸市磨耶山〔関，1933.，増田，橋本，1941〕，多井畑〔北村，1937〕，西垂水（1♂，9-v-1961，Torii leg.）。加西市畑（1♂，23-vi-1974，1♂，29-vi-1974）。神崎郡大河内町川上（1♂，6-viii-1977）。氷上郡柏原（1♂，3-viii-1956，Y.Yamamoto leg.）。
3. *Holotrichia* (s. str.) *convexopyga* Moser, 1912 マルオクロコガネ
Moser により“China : Kiukiang : Kobe”から記載された (Ann. Soc. Ent. Belgique, v x i , p.435, 1912)。

新島・木下両博士は、熊本，仙台，秋田を産地に記録するとともに図説をされた（1923）。沢田博士は、この類を分類されるにあたり、属名を *L. W. Saylor*（1937）に従って *Lachnosterna* 属を用いられた（1949）が、現在では再び元に戻って *Holotrichia* 属が使われている（*Holotrichia* Hope, 1837, Col. Man. 1, 99, 100, type-species : *Melolontha serrata* Fabricius, 1792）。

分布は広く、本州，伊豆諸島，利島，神津島，式根島，三宅島，九州で、国外では支那にもいる。野村氏は、三宅島を模式産地として新亜種 *subsp. tametomoi* Nomura (Entom. Rev. Japan, 21 巻, 2 号, p.72, 92, 1969) を創立されている。それについて石田正明氏は、本州産のものと区別できるほどの差を有しているとは考え難いとの見解を発表しておられる（月刊むし，32号，1973）。

県下には割合多く産するようである。ただ、次種クロコガネと混同しているケースがおおいようで、本種の記録の方が少ない。両種混棲しているが、どちらも多くいるようである。

産地：三原郡慶野松原（1♀，26-v-1983）。津名郡開鏡（1♀，24-v-1942）。尼崎市内（2exs.，23-v-1958）。宝塚市内（1ex.，22-iv-1956）。神戸〔Moser, 1912〕，灘岸本（1ex.，3-v-1959，Tsukaguchi leg.），鳥原（2♂♂，3-viii-1938，1♀，21-iv-1940，2♂♂ 1♀，10-vi-1956，1ex.，14-vii-1968，1ex.，16-viii-1970，3exs.，20-vii-1970，1ex.，30-vi-1972，1ex.，10-viii-1974，1♂，1-viii-1978，1ex.，13-vi-1980），山の街（1♂，4-

vii-1954), 藍那 (1ex., 6-vi-1965, 2exs., 10-vi-1978), 長田 (1♂, 13-iii-1938), 舞子 (6♂♂, 2-vi-1940, 4♂♂, 8-vi-1940, 3♂♂, 8-vi-1940, 4♂♂, 2-vi-1940, 1♀, 24-v-1942). 明石市明石公園 (2exs., 12-vi-1976, 1ex., 3-viii-1976, 4exs., 16-vii-1976, 1ex., 9-vii-1978, 1ex., 5-vi-1978). 加西市畑 (1♂, 29-vi-1974). 相生市三濃山 (1♀, 8-vi-1974). 飾磨郡家島 (1♀, 26-v-1978). 氷上郡〔山本, 1958〕, 新井 (1♀, 19-viii-1950). 養父郡氷の山 (1♂, 27-vii-1954).

4. *Holotrichia* (s. str.) *kiotoensis* Brenske, 1894 クロコガネ

Brenske により種名のごとく “Kioto” 産で記載された種である (Menn. Soc. Ent. Belg., 1894, p.19 et 68). なお同じところに記載されている *H. Waterhousei* も本種と同じである.

Waterhouse が “Shanghai: Formosa: Japan” を産地に記録された *H. parallela* も本種のシノニムになる (1875).

それまで Lewis が *Lachnosterna inelegan* として “Nagasaki, N. China” を産地で記載された種がクロコガネとされていた (Ann. Mag. Nat. Hist., 1865, p.396). Reitter の Best.-Tab. (50), 1903, p.176 にも *Holotrichia inelegans* として扱われているし, Medvedev もそのように扱っている (1951).

新島・木下両博士は, Moser の説に従って (Ann. Soc. Ent. Belg. 1912, p. 437), この *H. kiotoensis* を使用された (1923).

本種も日本に広く分布していて, 北海道, 本州, 佐渡, 粟島, 四国, 九州, 黒島, 対馬から朝鮮, 樺太, 東シベリア, 満洲, 支那に及んでいる.

生態についての詳しい報文が見当たらない. 成虫は5月ごろから出現, クヌギなどの広葉樹の葉を食べあらず. 幼虫は土中で根を食べて育つが, シバや苗木が害されることがある.

兵庫県では普通種である. クヌギなどの広葉樹の葉を食べあらず.

産地: 津名郡開鏡 (1♂, 24-v-1942), 津名町大町〔堀田, 1974〕. 洲本市安乎町, 先山〔堀田, 1974, 1976〕. 川西市見野, 大和, 笹部〔仲田, 1978, 1982〕. 神戸市灘岸本 (1ex., 3-v-1958, Tsukaguchi leg.), 御影〔関, 1932〕, 再度山 (1♂, 10-vi-1979), 烏原 (1♀, 4-v-1942, 1♀, 15-vi-1942, 4♂♂ 4♀♀, 10-vi-1956, 1ex., 15-v-1970, 1ex., 16-viii-

1970, 1ex., 26 -viii-1970, 1ex., 11 -vii-1971, 1♀, 1 -viii-1971, 1ex., 1 -v-1975, 1ex., 20-vii-1975, 2♂♂, 9 -v-1976, 1ex., 2 -ix-1978, 1ex., 3 -ix-1978), 妙法寺〔北村, 1937〕, 舞子(2♂♂, 2 -vi-1940), 垂水(1♀, 15 -v-1954, Ishida leg.). 明石市明石公園(1ex., 3♂♂ 2♀♀, 26 -vi-1976, 2ex., 3 -vii-1976, 1ex., 26-vi-1977). 三木市美嚢川川原(1♀, 2 -vii-1979). 加古川市加古川(2♂♂ 2♀♀, 28 -v-1954, Ishida leg.). 朝来郡生野(1♀, 8 -vii-1956). 揖保郡〔大上, 1907〕. 氷上郡〔山本, 1958〕, 柏原(1♂, 30 -vi-1951, 1♀, 25 -vi-1946, 1♀, 21 -viii-1955, Y. Yamamoto leg.), 妙見山(1♂, 17 -v-1952, Y. Yamamoto leg.). 出石郡出石町丸中〔高橋, 1975〕. 豊岡市福田, 神武山〔高橋, 1975〕. 養父郡氷の山(1♀, 25 -vii-1959). 美方郡扇の山〔辻, 湯浅, 1961., 辻, 岸田, 1972〕.

5. *Holotrichia* (s. str.) *parallela* (Motschulsky, 1854) オオクロコガネ
Motschulsky により "Shinghai, Formosa : Japan" 産で記載された種である (Etud. Ent., 3, p.64, 1854).

従来日本では、オオクロコガネとして Waterhouse の命名した "Nagasaki ; Cheefoo" 産 *H. morasa* の学名が用いられていた。しかし Medvedev は *H.* (s.str.) *parallela* を用いられ (I.C., pp.297-299, f.556, 1951), 現在もこの学名の種として取り扱っている。大変光沢のにおい種である。

分布は、本州、四国、九州、対馬、樺太、朝鮮、済州島、台湾、チベット、支那と広く、本州でもやや普通に見られる種である。

広葉樹の葉を食べる。幼虫は、土中で根を食べて成育する。卵から成虫までの期間は1~2年といわれている。

兵庫県下でも割合広く分布している種であるが、あまり山地帯での産が知られていない。

産地：川辺郡猪名川町日生ニュータウン〔仲田, 1978, 1982〕. 川西市見野, 大和, 笹部〔仲田, 1978, 1982〕. 神戸市魚崎〔伊賀, 1955〕, 瀬弓ノ木町(1♀, 11 -viii-1955, Isida leg.), 磨耶山〔増田, 橋本, 1941〕, 烏原(1♂ 1♀, 10 -iv-1939, 1♂, 20 -vii-1978), 多井畑〔北村, 1937〕, 舞子(1♂, ix-1939). 明石市明石公園(1♀, 29 -vi-1975, 1ex., 26 -vi-1977, 2♂♂,

12 -vii-1978) . 三木市美嚢川川原 (3♂♂, 25 -vi-1979, 1♀, 16 -viii-1979) .
加西市畑 (1♂, 27 -vii-1974, 1♂, 9 - vi-1974) . 氷上郡〔山本, 1958〕,
柏原 (1♀, 30 -vii-1955, 1♀, 17 -vii-1955, Y.Yamamoto leg.) , 芦田村 (1 ♀, 2 - viii-1955) . 出石郡出石町奥小野〔高橋, 1963〕, 内町〔高橋, 1975〕 .
豊岡市〔高橋, 1975〕 .

6. *Holotrichia* (s. str.) *picea* Waterhouse, 1875 コクロコガネ

Waterhouseが“Nagasaki : Hakodadi”を産地に記載された種 (I.C., p.103—104, 1875) . 同時に var. *rufopicea* を記載している.

Lewis は“Nagasaki, Chiuzenji and Yokohama”を産地に *Lachnosterna* 属で記載している (1895) .

新島・木下両博士は、国内の産地を挙げて図説された (1923) .

本種も沢田博士の *Lachnosterna* 属使用 (1949) で、この属名が使用された時期があるが、Medvedevは *Holotrichia* 属に取り扱い (1951) , 現在はそのまま使用されている.

伊豆諸島の御蔵島を模式産地として subsp. *izuensis* Nomura (Entom. Rev. Japan, 21 巻, 2 号, p.73, 1969. なお分布は利島, 式根島, 神津島, 大島と伊豆諸島に広くいるとなっている) が記載されているが、これが本州産とちがうとするにについてはかなり無理があるようである (月刊むし, 32号, 1973) .

分布は、北海道, 本州, 四国, 九州, 朝鮮, 満洲, 蒙古, 支那と広く、新島・木下両博士はかつてクロコガネが日本の南部に多く、コクロコガネが北部に普通のように考えられる旨を記しておられるが、兵庫県下ではコクロコガネの方が個体数は少ないように思う. クロコガネとの区別は、頭部と前胸背との間に軟毛を密生していることでできる.

生態についての詳しい報告は見当たらない. 広葉樹の葉を食べており、幼虫は土中で根を食べて育ち、苗木などを加害することがあるといわれており、卵から成虫までの期間も1~2年といわれている.

尾節板は♂では一様であるが♀ではかすかに中高、尾節は♂では横長にへこみ♀では高まる.

産地：川辺郡猪名川町三草山 (1ex., 5 -vii-1980) . 神戸市灘・岸本 (1ex., 31 -v-1959, Tsukaguchi leg.) , 烏原 (1♀, 3 - viii-1938, 1♂, 21 -iv-

1940, 1 ♂, 30 -iii-1942, 3♂♂, 25 -iv-1954, 1♀, 17 -viii-1976, 1ex., 1 -v-1977), 妙法寺〔北村, 1937〕. 飾磨郡家島〔上田, 1981〕. 出石郡神美村〔北村, 1937〕. 養父郡氷の山〔高橋, 1981〕. 美方郡扇の山〔湯浅, 1963, 辻, 岸田, 1972, 高橋, 1981〕.

7. *Pollaplonyx* (s. str.) *flavidus* Waterhouse, 1875 オオキイロコガネ

本種は Waterhouse によって新属新種で図入りで記載されたのであるが, 残念ながら産地がまったく記録されていない (I.C., p.105, pl. III, f.6, 1875). 分布は, 本州, 四国, 九州であるが, それほど普通に在る種ではなさそうである.

広葉樹などの葉を食べ, 成虫は5月から出現, 幼虫は土中で根などを食べて育ち, 卵から成虫までの期間は1~2年といわれている.

県下では大変少ない種で, 氷上郡下のものは灯火に飛来したもの (いずれも高橋匡氏採集). 笠形山では大きな石の下にいたものである. この種については筆者が詳しく図説している (兵庫生物, Vol.4, No.1, p.45 - 46, 1960).

産地: 神崎郡笠形山 (2♂♂, 12 -vi-1966). 氷上郡青垣町神楽 (1♂, 10-v-1958, T.Takahashi leg.), 高源寺 (2♂♂, 1♀, 30 -v-1958, T.Takahashi leg.). 出石郡出石町〔高橋, 1963, 1981〕.

8. *Heptophylla picea* Motschulsky, 1857 ナガチャコガネ

Motschulsky により Japanより記載された (I.C., vi, 1857, p.33). Waterhouse は "Nagasaki; Yokohama" を産地に記録 (I.C. p.106, 1875), Heyden は Hiogo を産地に (I.C. p.342, 1979), Lewis は "Kiushiu, main island, and Yezo. Very common" を産地に記録された (I.C., p.399, 1895). なお Motschulsky の記載した *Holotrichia transversa* (I.C., p.5, 1860) も本種のシノニムである.

普通に在る種で図説も多い. 分布は, 千島, 北海道, 本州, 四国, 九州, 対馬, 屋久島, 朝鮮に広く産する.

本種の生態については, 内田登一・中島敏夫両博士の "ナガチャコガネの生態学的研究" (北大演習林研究報告, 14巻, 1号, p.101-138, pl.1-3, 1948) に詳しい.

兵庫県下でもきわめて普通種である. 広葉樹などの葉を食べる.

日本産には次の亜種がある. subsp. *iriei* Kusui, 1971, イリエナガチャコ

ガネ (Kyushu : Shimokoshiki Is.) . subsp. *maenamii* Nomura, 1969, イズナガチャコガネ (Izu Is.) .

産地：三原郡諭鶴羽山〔堀田, 1974〕. 洲本市先山〔久松, 1974, 堀田, 1976〕. 川辺郡猪名川町三草山 (3exs., 5 - vii-1980) . 川西市横地, 見野, 笹部〔仲田, 1978, 1982〕. Hiogo〔Heyden, 1879〕. 神戸市磨耶山〔増田, 橋本, 1941〕, 保久良山 (1ex., 12 - v-1978) , 烏原 (1ex., 16 - vi-1938, 1ex., 30 - vi-1939, 1ex., 9 - vii-1939, 1ex., 2 - vii-1972, 1ex., 9 - vii-1972, 2ex., 1 - vii-1981, 1ex., 22 - vii-1982, 1ex., 23 - vii-1982, 1ex., 23 - vi-1983, 1ex., 8 - vii-1983) , 藍那 (1ex., 27 - vi-1978) , 妙法寺 (2ex., 23 - vi-1979) , 逢山峡 (1ex., 2 - vii-1982) . 明石市明石公園 (7ex., 15 - vi-1975, 6exs., 21 - vi-1975, 16exs., 12 - vi-1976) . 加西市畑 (1ex., 13 - vii-1974, 1ex., 21 - vi-1975) . 飾磨郡雪彦山 (1ex., 14 - vii-1957) , 家島〔上田, 1981〕. 朝来郡大河内町川上 (1ex., 15 - vii-1977) , 須留ヶ峯 (1ex., 31 - vii-1975, M.Yuma leg.) . 揖保郡〔大上, 1901〕. 佐用郡久崎 (1ex., 14 - vii-1957) . 氷上郡〔山本, 1958〕, 新井 (1♀, 19 - viii-1957) , 柏原町 (1♀, 16 - viii-1959) . 出石郡但東町赤花〔高橋, 1963, 1981〕. 豊岡市〔高橋, 1975〕, 神武山〔高橋, 1975, 1981〕. 養父郡氷の山 (1♂, 24 - vii-1955, 1♂, 25 - vii-1959) , 〔高橋, 1981〕. 美方郡扇の山〔辻, 岸田, 1972, 高橋, 1981〕.

9. *Melolontha frater* Arrow, 1913 オオコフキコガネ

本種は Arrowによって "S. Japan: Nara, Kii Wada, Kobe (June, July)" として記載された種である (Ann. Mag. Nat. Hist., 8, x ii, p.400-401, 1913) . Waterhouseは *Hoplosternus japonicus* Haroldなる学名で本種を "Osaka (in the month of May)" で記録している (I.C., 1875) .

Haroldが命名した上記種は *M. japonica* Burmeisterと同一物であることを, Harold自身認めていた.

Tesar が *Hoplosternus* Harold なる学名を用いているが, これは本種のことにはかならない (Entom. Nachr. B.I, x ii, 3 / 4, p.165, 1938) .

本種については野村鎮氏の詳しい報文がある (桐朋学報, 第2号, 1952) . 図説も多い.

分布はかなり広く、蒙古、朝鮮、本州、四国、九州、台湾に産し、各々の地方で変異がかなりあるようである。

本州、佐渡、伊豆大島、新島、神津島、式根島、四国、九州、屋久島に産するものは、基本亜種 *subsp. frater* Arrow に属し、内蒙古、北支、朝鮮に分布するものは *subsp. gobiensis* Nomura, 1952 に、台湾に分布するものは *subsp. taiwana* Nomura, 1952 のように分けられている。

海岸や河原付近に発生する種として知られているが、山地帯でも少なからずいるようである。次種コフキコガネに比べ個体数は少ないようであるが、県下に広く分布している種である。

産地：洲本支安乎町〔堀田, 1974〕, 先山〔久松, 1974〕, 川西市山下, 大和, 笹部〔仲田, 1978, 1982〕, 西宮市香櫨園 (1♀, 10 -vii-1942) , 神戸市〔Arrow, 1919, 野村, 1952〕, 住吉 (1♂, vii-1939) , 磨耶山〔増田, 橋本, 1941〕, 烏原 (2♀♀, vii-1939, 1♀, 1 - vii-1939, 1♀, 13 -vii-1939, 1♀, 15 -vii-1939) , 山の街 (1♂ 3♀♀, 10 -vii-1949) , 高取山〔鳥居, 1962〕, 須磨〔北村, 1937〕, 明石市明石公園 (1♀, 12 -vi-1973, 3♂♂ 2♀♀, 3 -vii-1976, 2♀♀, 16 -vii-1976, 1♀, 10 -vii-1977, 1♀, 15 -vii-1978, 1♂, 12 -vii-1976, 1♀, 13 -vi-1979, 1♀, 7 - vii-1979) . 三木市美囊川河原 (1♂ 1♀, 25 -vi-1979, 1♂, 19 -vii-1979) . 加西市畑 (1♂, 20 -vii-1974) . 相生市三濃山 (1♂, 20 -vii-1974) . 揖保郡〔大上, 1901〕, 氷上郡〔山本, 1950〕, 出石郡神美村〔北村, 1937〕, 但東町小谷〔高橋, 1963〕, 豊岡市〔高橋, 1975〕, 養父郡氷の山 (1♀, 27 -vii-1956) , 〔高橋, 1975〕, 美方郡湯村〔湯浅, 1960〕.

10. *Melolontha japonica* Burmeister, 1855 コフキコガネ

Burmeisterが Japanより 1♂によって記載 (Handb. der Ent., iv, 2, p.420, 1855) . Waterhouseは "Yokohama; Hiogo; Nagasaki (in May)" を記録された (I.C., p.106, 1875) .

Hoplosternus japonica Harold, 1875, *H. haroldi* Moser, 1913は共に本種のシノニムである。

新島・木下両博士は、日本各地産を記録して図説をされた (1923) . 同時に *var. gotenbaensis* が記載されているが、特に分けられるかどうかかわからない。

本種に関しては野村氏の詳しい報文がある（1952）。

分布は、本州、佐渡、新島、神津島、三宅島であり、九州、屋久島、種子島に産するものはサツマコフキコガネ *M. satsumaensis* Niiijima et Kinoshita, 1923，四国に産するものはシコクコフキコガネ *M. satsumaensis shikokuana* Nomura (Toho Gakuho, 27号, p.78, fig.3,8,9, 1977) となる（四国亜種には若干問題があるよう）。

兵庫県下には普通にいる種である。本種の方がオオコフキコガネより多くいるし、分布も広い。やはり、どちらかといえば海岸ぞいの地域とか河原付近に多い。生態などは詳しく調べられていないようであるが、卵から成虫までの期間は1～2年といわれている。

なお、神戸から *M. satsumaensis* Niiijima et Kinoshita, 1923 サツマコフキコガネの記録がある〔J.E.A. Lewis leg., 沢田, 1937〕が、標本が見られないのではっきりしたことがわからない。野村鎮氏の意見に従って、本種として兵庫県のファウナから省いておく（1952）。

産地：津名郡津名町大野〔堀田, 1974〕。洲本市安乎町〔堀田, 1959〕，先山〔堀田, 1975〕。川西市見野〔仲田, 1978, 1982〕。Hiogo〔Waterhouse, 1875, Heyden, 1879〕。神戸市〔野村, 1952〕，御影〔関, 1933〕，六甲山（2♂♂, 10-vii-1953），磨耶山〔増田, 橋本, 1941〕，（1♂, 21-vii-1955），烏原（8♂♂, 13-vii-1939, 1♂, 10-vii-1939, 4♂♂, 15-vii-1939, 2♂♂, 11-vii-1939, 1♀, 15-vii-1939, 2♀♀, 13-vii-1939, 1♀, 11-vii-1939, 3♂♂ 3♀♀, 19-vii-1959, 1♂ 1♀, 27-vi-1976, 1♀, 18-vii-1939, 3♂♂ 3♀♀, 19-vii-1959, 1♂ 1♀, 27-vi-1976, 1♀, 18-vii-1980, 1♂, 6-viii-1983, 2♂♂ 2♀♀, 11-vii-1983, 1♂ 1♀, 12-vii-1983, 5♂♂ 1♀, 13-vii-1983）。山の街（2♂♂, 10-vii-1949, 4♂♂, 3-vii-1955, 1♂, 27-vii-1957），藍那（1♂, 14-vii-1978），箕谷（1♀, 25-vii-1948），高取山〔鳥居, 1962〕。明石市明石公園（1ex., 29-vi-1975, 3♂♂ 2♀♀, 3-vii-1976, 1♂, 16-viii-1976, 1♂, 7-vii-1979, 1♂ 1♀, 12-vii-1978）。播磨〔新島, 木下, 1923〕。高砂市伊保町〔森田, 1974〕。加西市畑（1♀, 27-vii-1974）。揖保郡〔大上, 1901〕。氷上郡〔山本, 1958〕。出石郡神美村〔北村, 1937〕，出石町内町〔高橋, 1963〕。豊岡市〔高橋, 1975〕。養父郡氷の山（2♂♂, 25-vii-

1955, 1 ♂, 25 -vii-1955, 2♂♂ 1♀, 25 -vi-1959). 美方郡扇の山〔湯浅, 1960, 辻, 岸田, 1972〕.

11. *Polyphylla laticollis* Lewis, 1887 ヒゲコガネ

Lewis が “captured in the plains between Fujisan and Yokohama, but I have not it myself” と記して3♂標本で記載したが、データ等は何もない (Ent. Month. Mag., x x iii : 231-232, 1887). 後に Lewisはこの種に言及して province of Sakami で得た3標本と記している (1895). この地名は間違っていて Sagami と解すべきであろう.

1923年, 新島・木下両博士は, 図説されたなかに播磨を産地に掲げられている.

日本を代表するコガネムシの1つであるだけに, ほとんどの図鑑類に図説されている種である.

兵庫県下でも三木市美嚢川河原のように多数いるところもあるが, 全般には調査不十分なのか, あまり多いところが知られていない. 瀬戸内に面した中部以南に産地は偏っているが, 河川ぞいにいるので他にも産地はあると考えられる.

本種並びに次種シロスジコガネについては, 筆者が最近詳しく報告しているのでそれを見ていただきたい (きべりはむし, Vol.8, No.2, 1980). したがって産地は地名だけを掲げた.

産地: 尼崎堂椎堂. 神戸市御影, 高取山, 妙法寺, 伊川谷. 播磨. 三木市美嚢川河原. 加西市畑. 小野市東条村. 揖保郡. 出石郡神美村.

12. *Polyphylla albolineata* (Motschulsky, 1861) シロスジコガネ

1861年, Motschulsky により新属 (Granida) 新種として日本から記載された (Etud. Ent., p.8, 1861).

Waterhouse は, 1875年に♂の図示をするとともに産地を Nagasaki (rare) : Nipon (not uncommon) として記録された.

1895年には G.Lewis が, 日本での産地を “Nagasaki, Kobe, Niigata, Akita. Also Osima in the Puikuan group” として記録するとともに P. schoenfeldti は本種のシノニムとされた. 現在 P. schoenfeldti は琉球列島とトカラ列島に分布する別種とされている.

本種も前種同様, 日本を代表するコガネムシの1つとして, ほとんどの図鑑に図示されてよく知られている種である. 分布は, 北海道, 本州, 伊豆諸島, 四国,

九州で、本種の方が北まで分布している。

兵庫県下でも、この種は日本海側にも分布していて広く産するようであるが、南の方での海岸線破壊で個体数が非常に減少しているように思われる。本種は前種と異なりより海浜性、好塩性のようで、海岸線が変化するにつれ見られなくなるのは淋しい。現在、淡路島の吹上浜に多くいることが知られているぐらいだと思われる。

産地：三原郡南淡町吹上浜。尼崎市水明町。西宮市香櫨園。Kobe。神戸市御影、六甲山、摩耶山、板宿、妙法寺、多井畑、西垂水。播磨。高砂市伊保町、別府浜ノ宮。出石郡出石町宮内。豊岡市大岡山。美方郡浜坂、扇の山。

以上、兵庫県産のコフキコガネ類の種の分布を眺めてみたが、特に珍しい種を産するわけではなく、本州に分布している種を一通り産するという状況である。個々の種の分布状況は、今後の調査で変わってくるであろう。また、生態方面での調査は今後の大きな課題と考えられる。

産地で〔 〕の中のものは記録からの引用、（ ）の中のものは筆者採集、標本所有のもの

— I R A T S U M E の原稿募集 —

IRATSUME10号の原稿を募集します。原稿は必ず推敲したうえ、横書き400字詰原稿用紙に浄書してください。附図や写真の紙焼は、原則として投稿者で用意することにします。なお、10号からは投稿者は、会誌ができた時点で1000円を負担し、会誌3部を受け取ることになります（送料は別）。原稿の締切は1985年12月末日（厳守）。送付先は、〒567 茨木市総持寺2-11-4 谷角素彦まで。原稿に関する問い合わせも、受け付けます。